

活躍する卒業生

高島鞆之助先生の魂が受け継がれた西村英俊氏

西村英俊 61歳—東アジア・ASEAN経済研究センター(ERIA)事務総長(具体的には、世界人口73億人の約半分の人間が住むアジア地域の主に経済をテーマにしているトップシンクタンクのリーダーです。ASEAN10ヶ国+日・中・韓・豪・新西蘭・印の計16ヶ国が参加しています。)



西村 英俊氏(小76期)

彼は、追手門学院小学校(76期)を卒業後、新北野中学、灘高等学校から東京大学法学部を卒業、旧通商産業省に奉職。愛媛県副知事、日中経済協会専務理事等を経て、現在インドネシアに本部があるERIAのトップを務めています。アジア各国を遊軍の如く飛び回って、日本の国益の為に活躍しているのですが、その姿は正に明治維新に際して、大混乱の中、新生日本のために欧米を駆け回った志士達を彷彿させるものです。1844(天保15)年12月18日、薩摩国鹿児島郡鹿児島府下高麗町で誕生した正二位勲一等高島鞆之助子爵は、西南の役で西郷南洲隆盛と対峙した官軍で、別働第1旅団司令長官を務めた後、1888(明治21)年、大阪鎮台司令官の時に、大阪偕行社附属小学校(現・追手門学院小学校)を創設されました。(因みに、土佐出身の我が先祖 谷 干城(たてき)は、西南の役で熊本鎮台司令官を務めて、高島先生と同郷、郷中教育を受けた西郷南洲の敵役で、先日、島津義秀・加治木島津家第17代当主に、私達の天敵だったと言われてました。)

さて、その郷中教育の真髄は、①自分に負けるな ②嘘をつくな ③弱者をいじめるな という3つの柱です。その中で成長し、江戸末期から明治を駆け抜けた高島先生が創立された追手門学院小学校で、人生で最も重要な初等教育6年間を過ごした訳ですから、現在の西村英俊の活

谷 康平 (小76期)

躍は、至極当然といえるものです。すでに、会員諸氏はよくご存知の原丈人(内閣府本府参与/アライアンス・フォーラム財団専務理事/デフタ・パートナーズ会長/国際連合大使)も私達と同じ1年

山桜会評議員
社会医学環境衛生研究所・所長
(滋慶学園グループ・顧問/評議員)
(医療法人医誠会グループ・顧問)



谷 康平氏(小76期)

い組でした。そして、彼は世界を股にかけて、最近ではバングラデシュやアフリカ諸国等の経済支援をしている事でも有名ですが、やはり、多感な小学生時代を高島先生の魂が宿る追手門学院小学校で過ごしたことが、今日の活躍に繋がっている事は言うまでもありません。

その原丈人同様、前述の西村英俊は今日も日本のため、アジア各国で大活躍をしているのです。

(文責：谷康平 — 西村英俊、原丈人とは76期の1年い組からの同窓で、特に西村とは小唄(堀小勇婦久師匠)の弟弟子にして、マンガ・プロレスと共通の趣味を持ち、50年来の親友です。また、西村は我尼吾(がにあ)という俳号を持ち、元東京大学総長・元文部大臣・物理学者でもある俳人有馬朗人先生と昵懇です。そして我が豚児 秀真(ほつま)が現在126期でお世話になっております。)



観世流シテ方 大槻裕一(赤松裕一)さん (小121期) 大坂の陣400年記念 「大阪城本丸新能」

関西能楽界のホープと呼び声の高い 大槻裕一(赤松裕一)さんが、9月23日 能を愛した豊臣秀吉ゆかりの大阪城天守閣前本丸広場にて「大阪城本丸新能」に出演されました。幻想的な雰囲気の中 浮かび上がる天守閣をバックに 裕一さんのお母様発案の移動式舞台上、演目「石橋」を師である大槻文蔵さんと迫力たっぷりに勤められました。

詳細
写真



(昨年4月大阪能楽界の第一人者大槻文蔵さん(小学校66期卒業)の芸養子となり「大槻裕一」を名乗られています。)